



ニッコウキスゲが満開



霧降高原では、7月上旬、ニッコウキスゲが満開になり、霧降リフト事業所には、多くの観光客が足を運びました。

霧降高原のニッコウキスゲは、野生ジカの食害によって一時全滅の危機に瀕しましたが、平成元年から始めた補植と、平成6年から設置を始めた防護ネットによって年々回復し、今年も鮮やかな黄色の花で、私たちを楽しませてくれました。

リフトの下や山の斜面に^{じゅうたん}絨毯のように咲き広がるニッコウキスゲを見たお客さんは、「友人に連れられて初めて来ました。こんなに一面に咲いているとは思わなかったので、素晴らしい景色でびっくりしました。来年もまた来たいと思います」と話してくれました。



リフトの下、一面に咲き広がるニッコウキスゲ

フォトダイアリー

地域子育て支援センターでは、子育て中の皆さんを応援するために、さまざまな催しを行っています。7月2日(日)には、父親の育児参加を応援するイベント「パパもいっしょでうれしいな!」を開催しました。



親子で力を合わせて作った七夕飾りをおみやげに持ち帰りました。

「地域子育て支援センターでは、子育て中の皆さんを応援するために、さまざまな催しを行っています。7月2日(日)には、父親の育児参加を応援するイベント「パパもいっしょでうれしいな!」を開催しました。



パパもいっしょでうれしいな!

短冊を結びつけて七夕飾りを作りました。親子での共同作業に子どもたちは、大はしゃぎ。

親子3人で参加した、岡田唯里ちゃん(森友)は「3人でがんばってつくったよ」と我慢そうに見せてくれました。

竹の宵まつり



栗山地域の湯西川温泉で7月7日(金)から31日(月)まで竹の宵まつりが行われました。この催しは、夏の夜を楽しめる魅力あるイベントを作ろうと、温泉街にある食堂や商店が協力し平成16年から始められました。まつり期間中は、竹を切りぬいた中にろうそくを灯した竹灯籠約500本が、夜の温泉街を照らしました。また、七夕にちなんだイ



ベントということで、店先などには笹も飾られており、訪れた人たちは思い思いの願いごとを短冊に書き入れ、枝に結んでいました。
東京から来ていた男性は「湯西川温泉に来るのは4度目ですが、竹の宵まつりには初めてきました。竹灯籠がとてもきれいで雰囲気がありますね」と話していました。
週末などには平家琵琶や横笛の演奏会も行われ、訪れた人たちは、光と音に包まれた幻想的な夏の夜を楽しんでいました。



右：幻想的な平家琵琶の演奏会。
左：短冊に願いを込めて。